

# 「赤レンガ」

【令和3年度・第1号(新年度号)】

発行:倉敷市立市民病院広報委員会・地域医療連携室

発行月:令和3年6月



## ～倉敷市立市民病院 基本理念と基本方針～

### <基本理念>

- ・市民に信頼される地域の中核病院を目指す。
- ・人間味あふれる温かな医療を実践する病院を目指す。

### <基本方針>

- ・市民が利用しやすくかつ患者中心の良質な医療を公平に提供するよう努める。
- ・地域の中核病院として市民のニーズに応え、初期・二次救急医療、小児の夜間救急の充実に努める。
- ・採算性を求めることが困難である救急医療、周産期医療、小児医療を提供し、公立病院として地域医療の確保に努める。
- ・市民の健康保持と福祉の増進を図るため、予防医療の充実に努める。
- ・地域医療の向上のための病診連携を図り、病床の一部を開放病床とする。
- ・病院の健全経営に努め市民の信頼に応える。
- ・疾病構造の変化に対応し得る医療体制の整備に努める。

### <目次>

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| ・表紙「当院基本理念・基本方針」 | ・「院長あいさつ」 |
| ・「事務局長・看護部長あいさつ」 | ・「新任職員紹介」 |
| ・「骨折リエゾンチームのご案内」 | ・「栄養だより」  |

## 令和3年 新年度 院長挨拶

昨年度は新型コロナで始まり、コロナで暮れた、国全体、世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、生活が無茶苦茶にされ、命も奪われた1年でした。コロナ禍はいまなお、第4波到来で変異ウイルスによりさらなる脅威にさらされて地域医療も崩壊寸前の様相を呈しています。家族内感染伝播がほぼ必発で、重症化率がとても高いのが特徴です。

切り札のワクチン接種が、医療従事者から始まり、7月中に高齢者の接種を完了すべく医療機関、集団接種会場で今、必死に行われています。接種現場に看護師補充が不可欠だろうと考え、市と協議して、市民病院から保健所へ2月から3名、4月から7名、6月から2名の計12名の師長、主任クラスの優秀な看護師を常駐の形で派遣しています。当院はこの一年、コロナ診療をきっかけに、医局員、看護師、コメディカル、事務職員、委託業者のすべてのスタッフが一丸となって精一杯頑頑張れたことはよかったですと思います。しかし医療体制の確保や感染対策の困難さは極まり、医療効率・医療経済的なダメージは計り知れず、「困難は乗り越えられる者にのみ与えられる」、「ピンチはチャンス」などの格言は、私の好みの座右の銘ではありますが、弱小いまだ発展途上の当院が、この難局に対峙し打ち勝つことが果たしてできるのだろうか。今のところ秘策はなく、ひとつひとつ向き合うしかありません。

国は、東京オリンピック開催に闇雲に固執しています。新型コロナ診療に直接かわり、多くの国民が苦しみ、悲しい結果を生んでいる現状を肌身で感じている医療従事者の一人としては「世界平和のためのスポーツの祭典」を今、楽しむ余裕などは決してありません。

コロナ禍に加え、今の政府の頼りなさ・無責任ぶりとで、まさに国難の時代ではありますが、まずは自主規制、ワクチン接種でコロナを乗り越え、笑顔で握手したり、抱き合って喜んだり、仲間と食事会、飲み会を楽しんだりできる社会を早く取り戻したいものです。今年度も何卒ご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝を切にお祈り申し上げます。

院長/病院事業管理者 江田 良輔

## 令和3年 新年度 事務局長挨拶

新しい年度になりましたが、いまだ新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、その対応は長期化を余儀なくされています。初めの頃は混乱のあった、手指消毒・マスク着用も今では習慣としてすっかり定着したのではないのでしょうか。気軽に観光地に出かけたり、旧友と食事に行ったりと以前のような生活が早くできればと思いますが、もうしばらくは難しいのかもしれませんが。

新しい病院になって4年目を迎えました。この間の風雨で外壁も少し落ち着いて見え、今ではすっかり景色の一部として違和感なく馴染んでいるのではと思います。コロナにより生活スタイルが変わってしまいましたが、市民病院はこれからも、地域の方に信頼され、人間味あふれる温かな医療を実践する病院であり続けたいと思っています。

今年度も、引き続きのご支援とご鞭撻のほどお願い申し上げます。

事務局長 島田 旭

## 看護部長 新任挨拶

令和3年4月1日付で市民病院看護部長に就任しました、石井和子と申します。「看護の質を高め人間味あふれる暖かな看護を実践する」という看護理念を受け継ぎ「安心・安全な看護」「患者様やご家族の気持ちに配慮した温かな看護」「専門的知識や技術を高め、質の高い看護ケア」を今後も目指していきたいと思っています。

現在、医療を取り巻く情勢は、昨年のコロनावirusの発生により一変してしまいました。また、そのことに加え、少子・超高齢・多死社会を迎える2025年を目前に地域に根ざした医療機関の重要性がより高まってきたと考えます。

当院は健康の維持・増進・疾病の予防から始まり、疾病や障がいを抱えながらの療養生活の継続、そして人生を全うするまでを誠実に支えていける病院を目指しています。療養する高齢者だけでなく、子どもを産み育てる人々、子どもたち、障がいのある人々などできるだけ多くの人々の生活を当院で支えていくことが私たちの使命だと思っています。

新病院開設4年目を迎え、これからも地域の中核病院であることを市民の皆様にも名実ともに認めていただけるよう、看護部の教育体制をさらに充実させ、職員全員で目標に向かって一歩ずつ前進できるように努めて参ります。

今年度も引き続きご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部長 石井 和子

# 新入職員紹介

## 医局 産婦人科 医長 大倉 磯治

対岸の香川県丸亀市の香川労災病院より4月1日付で赴任いたしました。今年で医師34年目となり昭和レトロの医師免許証で、出身は香川県の丸亀市です。親と家族のいる丸亀から通勤させていただくため、職場の皆様には、ご迷惑をおかけるすることも多々あるかとは思いますが、当院の発展の一助となれるように微力ですが精一杯努めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## 医局 整形外科 医長 井上 忠俊

整形外科の井上忠俊と申します。4月より皆様には大変お世話になっております。元々は福山市の出身で、兵庫県内で4年間整形外科医として勤務しておりました。岡山での勤務自体の経験が少なくまだ不慣れな点も多いですが、地域に根差した医療を提供できるよう精進しますので何卒よろしくお願い致します。救急外傷から慢性疾患まで、整形外科疾患全般について何かお困りのことがあれば是非お気軽にご相談下さい。

## 医局 内科 副医長 大森 洋樹

4月から岡山医療センターより参りました大森です。呼吸器内科を専門としつつ、内科全般の診療をさせていただきます。地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。

## 医局 内科 副医長 林野 健太

岡山市民病院から参りました、4年目の林野健太と申します。専門は血液内科になります。生まれは、奈良、育ちは大分、大学と研修は広島で、岡山に来てまだ1年ちょっとなので方言もわからぬ未熟者ですが、4ヵ月よろしくお願い申し上げます。

## リハビリテーション科 理学療法士 朝賀 亮介

この度、リハビリテーション科に勤める事になりました、理学療法士の朝賀亮介と申します。前職では玉島で経験を積み、これからは児島地区の為に、貢献したいと思っております。まだまだセラピストとしては未熟ではありますが、何卒宜しくお願い致します。

## リハビリテーション科 作業療法士 耕西 純矢

この度、新規卒業者として入職しました作業療法士の耕西と申します。驕り高ぶることなく、常に謙虚な姿勢で、患者様の人生の一部に携わらせていただくということを肝に銘じ、真摯に患者様と向き合って参ります。分からないことが多く、ご迷惑をお掛けすると思っておりますが、何卒宜しくお願い致します。

## 事務局 主幹 福島 慎太郎

事務局医事栄養係に配属された福島です。18年前に技術系企業から公務員に転職して以来、地域情報化や行政の情報化に携わってきました。病院は私にとって全く新しい勤務環境であり、戸惑いながらもワクワクしています。倉敷市民病院が、日本中に名を知られる病院になることに、裏方として貢献したいと考えておりますので、ご指導とご声援を何卒よろしくお願い致します。

## 事務局 北村 知佳

この度国民健康保険課から異動して参りました北村知佳と申します。前職では給付係で出産一時金や葬祭費の支給申請に関わる事務等をしていました。総務係の仕事をするのは初めてですが、興味のある分野でしたのでこの機会にしっかり勉強したいです。そして、病院職員の皆様にとって働きやすい環境づくりに尽力したいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

# 骨折リエゾンサービスチーム

## (FLST)のご案内

倉敷市立市民病院では、2021年7月より多職種が連携した骨折リエゾンサービスチーム（FLST:Fracture Liaison Service Team）が活動を開始します。

骨粗鬆症が原因で起こる脆弱性骨折は、骨の強度が低下し、わずかな外力で生じる骨折であり、高齢者の方の生活機能を一瞬にして奪い、生命予後の悪化をもたらす重大な疾患であります。一度脆弱性骨折を起こした患者さんの二次骨折を起こすリスクは極めて高くなるため、骨折治療を受けた患者さんに対して、再発する骨折を未然に防ぐことは患者さんのみならず、ご家族、地域社会、さらには医療経済の面からも極めて重要なことです。

骨折リエゾンサービス（FLS:Fracture Liaison Service）は、脆弱性骨折患者さんに対する骨粗鬆症治療開始率および治療継続率を上げるとともに、リハビリテーションの視点から転倒予防の実践により二次骨折を防ぎ、骨折の連鎖を絶つことを使命としております。そのために、多職種がそれぞれできる二次骨折予防を実践します。

### <FLSTメンバー>

整形外科医師 歯科医師 看護師 薬剤師 放射線技師 理学療法士  
管理栄養士 歯科衛生士 医療ソーシャルワーカー 診療情報管理士

各専門職種がチームとなり総合的な支援を行います。骨粗しょう症について受診をご希望される方は、**整形外科外来**へご相談ください。

※かかりつけ医療機関がある場合は、主治医へご相談ください。

患者さん、ご家族、地域社会に貢献すべく一丸となって活動していきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願いたします。



## 栄養だより



### 「便利なテイクアウト 食中毒にご用心！」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外食の機会が減少し、テイクアウト（持ち帰り）やデリバリー（配達）を利用する機会が増えてきました。しかし、お店で食べる場合と異なり調理してから食べるまでに時間がかかります。また、これからの季節は気温と湿度が高くなり、さらに食中毒のリスクが高まります。安心・安全な食生活を送るために、テイクアウト等を利用して食事をするときのポイントを紹介します。

#### 食中毒予防の三原則

家庭での食中毒を予防するには、食品を購入してから食べるまでの過程で、食品に細菌を「つけない」、食品に付着した細菌を「増やさない」、食品に付着した細菌を「やっつける」ことが原則です。

##### つけない



手には様々な雑菌が付着しています。食べる前や調理前には必ず手を洗いましょう。

##### 増やさない



テイクアウトした食品は持ち歩く時間を短くし、帰ったら早めに食べるのが大切です。食中毒菌は 20～50℃の温度帯でよく増えます。長時間常温で放置しないようにし、すぐに食べることができない場合は、冷蔵庫に入れて保存しましょう。

##### やっつける



ほとんどの食中毒菌は加熱によって死滅します。温め直す際はしっかりと加熱しましょう。

同じ食品を食べても食中毒を発症するかどうかはその人の健康状態にも左右されます。子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い人、過労や睡眠不足など体力が弱っている人などは食中毒になりやすく、重症化のリスクも高いです。

予防ポイントを実行するとともに、規則正しい生活を送るよう心掛け、ウィズコロナの新しい生活様式の中で食事を楽しみましょう。